

Power Gets You High: The Powerful Are More Inspired by Themselves than by Others.
Gerben A. Van Kleef, Christopher Oveis, Astrid C. Homan, Ilmo van der Loewe, & Dacher Keltner, 2015, *Social Psychological and Personality Science*, 6 (4), 472-480.

Introduction

- 自身について話すときに興奮する人々は多くいる
 - そのような人々は他者の話に注意を払いづらいことを、ケーススタディにおける観察は支持する
 - 一方で、他者の話を聞くことを楽しみ、他者の経験やアイデアによってインスピレーションを受ける人々もいる
- 何が、人々が、自身からインスピレーションを受けるのか、他者からインスピレーションを受けるのかを決定するのだろうか？
 - 本研究では、パワーと自己優先性の観点から、自身もしくは他者の経験から引き出されるインスピレーションの程度が、パワーの感覚に依存することを検討する

Inspiration and Its Sources

- インスピレーション：いくつかのアイデアや目的を自身の中に取り入れること (Simpson & Weiner, 1989)
 - 学術的な概念としては、動機付け、喚起、超越といった精神状態と同様 (Thrash & Elliot, 2003)
- インスピレーションは身近な経験だが、その資源はよく理解されていない (Thrash & Elliot, 2004)
 - 自分の外部の資源から引き起こされるインスピレーションと、自身の内部の資源から引き起こされるインスピレーションの概念を区別 (Thrash & Elliot, 2003)
 - ◇ 外部資源：他者の個性や功績、経験だけでなく、壮大な自然や、心動かされる音楽、美しい詩など
 - ◇ 内部資源：自身のアイデアや功績、経験の一部など

Power and Self-Prioritization

- パワー：不均等な価値資源をコントロールすること (Fiske, 1993; Keltner, Gruenfeld, & Anderson, 2003; Magee & Galinsky, 2008)
- パワーの感覚の強い人は、他者よりも、自身を優先する傾向にある (Keltner, Van Kleef, Chen, & Kraus, 2008; Lee & Tiedens, 2001)
 - パワーの感覚の強い人々は、自身の願望や意思によって行動する傾向にある (Galinsky, Gruenfeld, & Magee, 2003; Guinote, 2007; Lammers, Galinsky, Gordijn, & Otten, 2008; Magee, Galinsky, & Gruenfeld, 2007)
 - パワーの感覚の強い人々は、パワーの感覚の弱い人々よりパートナーの会話を妨げや

- すく (DePaulo & Friedman, 1998)、専門家のアドバイスを軽視しやすい (Tost, Gino, & Larrick, 2012)
- パワーの感覚が強い人々は、他者の精神状況を判断する際に、基準として、自身を用いる傾向にある (Overbeck & Droutman, 2013)
- まとめると、パワーの感覚の弱い人々と比較して、パワーの感覚の強い人々は、他者よりもより自身に焦点を当てる
 - 自身の精神状況によってより影響を受け、他者より自身の評価をより大きく見せる傾向にある

The Present Research

- 本研究では、パワーの感覚が、自身もしくは他者から受けるインスピレーションの程度を形成することを提唱する
 - パワーの感覚の強い人々は、パワーの感覚の弱い人々より、自身の経験からよりインスピレーションを受ける
 - 人々は、パワーの感覚が強いほど、他者の経験より自身の経験によって、よりインスピレーションを受ける

Study 1

Method

- 参加者：239名 (女性174名、男性64名、不明1名; $M_{age} = 20.73$, $SD_{age} = 6.02$)
- パワーの測定
 - パワーの感覚尺度 (Anderson, John, & Keltner, 2012)
 - ◇ 8項目5件法 ($\alpha = .80$, $M = 3.60$, $SD = 0.49$)
 - 例
 - 「私の願望に重要性はない」(反対項目)
 - 「私は、私のしたいことのために、他人を動かすことができる」
 - 「私の意見に支配力はない」(反対項目)
 - 「私は、私には多くの力があると思っている」
- インスピレーションの測定
 - 自身によるインスピレーション：5項目5件法 ($\alpha = .82$; $M = 3.30$, $SD = 0.65$)
 - ◇ 「私は、私が経験したことについて話すことで、インスピレーションが沸く」
 - ◇ 「他者と話すとき、私はしばしば自身の考えについて夢中になる」
 - ◇ 「私は、他者が私の話を聞くと、インスピレーションを得ていることが分かる」
 - ◇ 「私は、自身の人生について話すとき、夢中になる」
 - ◇ 「他者と話すとき、私はしばしば、自分が話したことによってインスピレーションを受ける」
 - 他者によるインスピレーション：4項目5件法 ($\alpha = .71$; $M = 2.82$, $SD = 0.66$)
 - ◇ 「私は、他者の話を聞くことで、インスピレーションを得ていることが分かる」

- ◇ 「私はしばしば、他者の物語が、自身の物語より、面白いと分かる」
 - ◇ 「私よりも他者の方が、日々より面白い経験をしているように思う」
 - ◇ 「私は、他者の経験について聞くことが、とてもインスピレーションを受けることに気づく」
- 2つの尺度は負の相関がある ($r(239) = -.38, p < .001$)

Results and Discussion

- 参加者は、他者からよりも自身の経験からインスピレーションを受ける ($t(238) = 6.61, p < .001$)
 - 自身によるインスピレーション： $M = 3.30, SD = 0.65$
 - 他者によるインスピレーション： $M = 2.82, SD = 0.66$
- 仮説を検証するために、2つのインスピレーション尺度の得点を回帰分析
 - 予測通り、パワーの感覚の強い参加者は、自身の経験からよりインスピレーションを受けた ($\beta = .27, t(237) = 4.34, p < .001$)
 - さらに、パワーの感覚の強い参加者は、他の経験から受けるインスピレーションが少なかった ($\beta = -.34, t(237) = -5.56, p < .001$) (Figure 1)
- 次に、自身からのインスピレーションと他者からのインスピレーションの差 ($M = 0.47, SD = 1.09$) を従属変数として回帰分析
 - よりパワーの感覚の強い参加者は、他者と比較して自身によってよりインスピレーションを受けることを感じた ($\beta = .37, t(237) = 6.09, p < .001$)
- これらの発見は、パワーの感覚の強い人が、他者の経験より自身の経験から、よりインスピレーションを得られるという意見を支持する
 - 研究1では、自身の経験について話すことの楽しさと、他者の話を聞く楽しさを利用
 - 研究2では、実際に参加者に対面式で会話をさせる

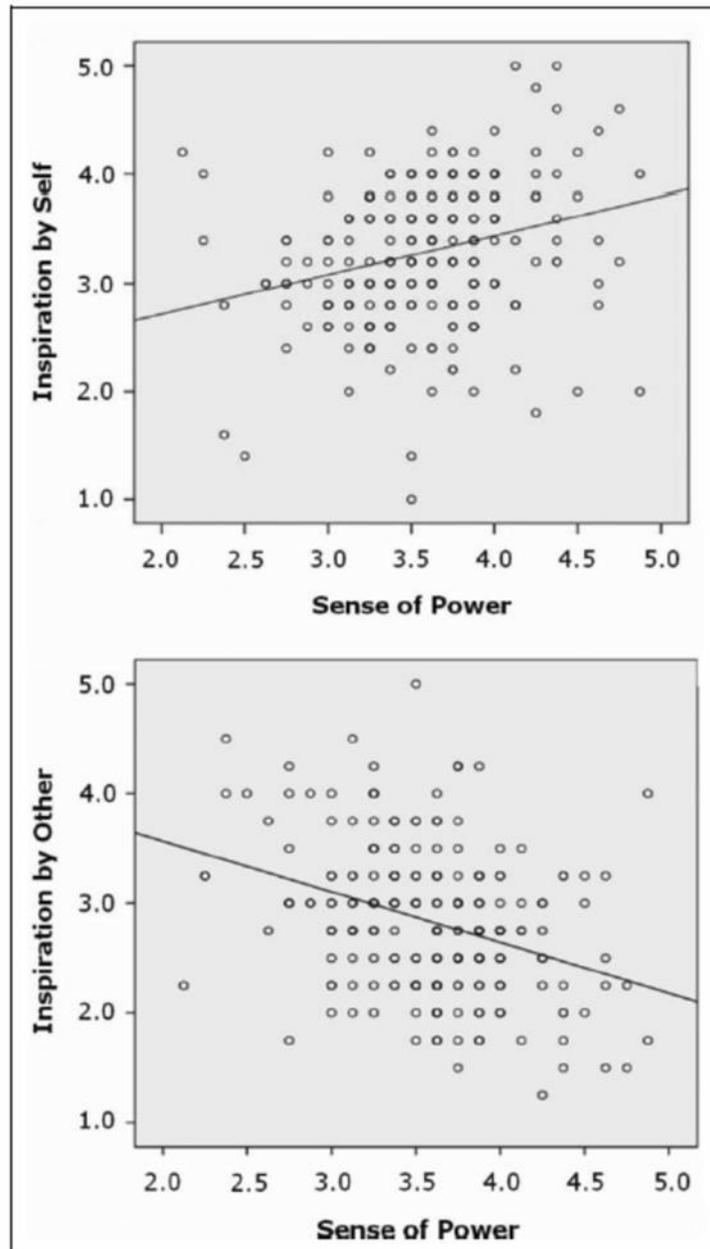


Figure 1. Degree of self-derived inspiration (top panel) and other-derived inspiration (bottom panel) as a function of personal sense of power (Study 1).

Study 2

Method

- 参加者：140名（女性80名，男性60名； $M_{age} = 20.86$, $SD_{age} = 4.95$ ）
- パワーの測定
 - 研究1と同様の尺度（7件法）（ $\alpha = .89$, $M = 5.17$, $SD = 0.93$ ）
- ベースラインの測定
 - 会話の前に、参加者のベースラインを測定

- 形容語句の感情状態をどの程度感じているか
 - ◇ 45 項目 7 件法
 - ◇ うち 4 項目をインスピレーションのベースラインとして測定 ($\alpha = .87$; $M = 2.40$, $SD = 1.38$)
 - 刺激を受けている (inspired)
 - 驚いている (amazed)
 - 道徳的に高められている (uplifted)
 - 畏怖している (awe)
- 他の形容語句は「有望性 (hopefulness)」「不安感 (anxiety)」「自尊心 (empowerment)」「幸福感 (happiness)」などの感情として利用
- 会話の測定
 - 参加者は同性同士でランダムにペアになり、向かい合って椅子に座った
 - ◇ 実験者は記録者として隣の部屋に移動し、会話はインターカムを使用
 - ◇ 2 つのカメラが参加者個人をそれぞれ録画
 - 参加者は過去 5 年間で、インスピレーションを受けた出来事について考えた (Thrash & Elliot, 2004)
 - ◇ 3 分間、参加者は両者とも、その出来事の要約を書いた
 - 参加者は交互に、それぞれ約 5 分間、話し手役の参加者が聞き手役の参加者に出来事を話し、各ターンの後、感情評定を行った
 - ◇ 話し手：自身の人生にどのような刺激を与えたかと、その出来事によってどのような感情を得たかを伝えるよう指示
 - ◇ 聞き手：他者の経験を理解しようとするよう指示
- 話し手の非言語的行動と物語のコーディング
 - 2 人の評定者が、話し手の目に見えるインスピレーションのサインとして 2 つの観点をコーディング (7 件法)
 - ◇ 熱心さ： $M = 4.10$, $SD = 0.84$ (評定者間の信頼性： .80)
 - ◇ 感情表現性： $M = 4.04$, $SD = 0.75$ (評定者間の信頼性： .67)
 - 2 人の評定者は記録した物語に対しての面白さを評定 ($M = 3.87$, $SD = 1.07$; 評定者間の信頼性: .68)
 - 物語の長さ (秒数) を客観的に測定 ($M = 237.21$, $SD = 69.50$)
- インスピレーションの測定
 - 参加者は自身の話をした後とパートナーの話を聞いた後、インスピレーションの程度を測定
 - ◇ 会話の前に行った形容語句のアンケート (7 件法)
 - 話し手： $\alpha = .87$, $M = 3.92$, $SD = 1.65$
 - 聞き手： $\alpha = .88$, $M = 3.63$, $SD = 1.63$
 - インスピレーションの測定は、コーディングしたサインと正の相関をした
 - ◇ 熱心さ： $r(139) = .23$, $p = .006$

◇ 感情表現性： $r(139) = .22, p = .009$

Results and Discussion

予備的な分析

- 参加者は他人の経験よりも、自分の経験からよりインスピレーションを受けた ($t(139) = 2.40, p = .018$)
 - 自分の経験： $M = 3.92, SD = 1.65$
 - 他人の経験： $M = 3.65, SD = 1.62$
- 先行研究と同様、パワーの感覚と感情のベースラインに関連があった ($ps < .05$) (Anderson & Berdahl, 2002; Langner & Keltner, 2008)
 - 幸福感、有望性、自尊心などのベースライン：正の相関
 - 不安感、悲しみ、困惑(embarrassment)、罪悪感などのベースライン：負の相関
- パワーの感覚と、話をした後、および話を聞いた後の感情を回帰分析
 - 以下以外にパワーの影響はなかった (all $ps > .10$)
 - ◇ 話をした後の不安感： $\beta = -.20, p = .020$
 - ◇ 話を聞いた後の不安感： $\beta = -.18, p = .039$
 - ◇ 話を聞いた後の困惑： $\beta = -.19, p = .025$
 - 自身のインスピレーションを受けた経験を考えることは、パワーの感覚の強い人の中で、ポジティブな影響を促進しなかった
- パワーの感覚とインスピレーションのベースラインの間に関連はなかった (Table 1)
- ストーリーの長さや評価者による物語の面白さにパワーの影響はなかった

仮説検証

- パワーの感覚を独立変数に、2つのインスピレーション尺度を従属変数にして、回帰分析 (Table 1)
 - パワーの感覚が強い参加者ほど、自身の話をすることで、よりインスピレーションを得た
 - 他者の話を聞くことからインスピレーションを得ることは、パワーの感覚と関連しなかった
- 次に、話した後のインスピレーションと聞いた後のインスピレーションの差 ($M = 0.38, SD = 1.19$) を従属変数として、回帰分析 (Table 1)
 - 参加者のパワーの感覚が強いほど、他者の経験と比較して、自身の経験によってよりインスピレーションを受けた
- 最後に、話し手の非言語的行動を従属変数として、回帰分析 (Table 1)
 - 話し手のパワーの感覚は、熱心さや感情表現など非言語的行動と関連する
 - ◇ パワーの感覚の強い人は、パワーの感覚の弱い人と比較して、自身の経験を話すときに、眼に見えるインスピレーションを引き出した

Table 1. Associations Between Participants' Personal Sense of Power and Their Baseline Inspiration, Story Characteristics, Self-reported Inspiration After Talking and Listening, and Coder-rated Behavioral Signs of Inspiration While Talking (Study 2).

	Effect of personal sense of power		
	β	$t(138)$	p
Exploratory analyses			
Baseline inspiration	-.03	-.33	.74
Interest level of stories	.14	1.67	.10
Length of stories	-.04	-.50	.62
Hypothesis testing			
Inspiration after talking	.18	2.13	.035
Inspiration after listening	.02	.25	.806
Inspiration difference score (talk-listen)	.22	2.62	.010
Coder-rated enthusiasm of speaker	.18	2.12	.036
Coder-rated emotional expressivity of speaker	.20	2.37	.019

Note. Results presented in this table are based on regression analysis. We also tested our hypothesis using multi-level modeling to account for possible non-independence of observations stemming from the same dyad (Bryk & Raudenbush, 1992). These analyses produced very similar effects and significance levels, leading to identical conclusions. We provide the regression results here for ease of presentation and comparison across effects (multi-level analyses do not yield comparable standardized coefficients, precluding direct comparisons with other effects).

- 面白いことに、パワーの感覚の強い人でも、ベースラインにおいてインスピレーションに影響はなかった
 - パワーの感覚の強い参加者は、自身の気持ちを高める経験を考えることで、インスピレーションを促進したが、一般的なポジティブな感情に影響はなかった
 - これは、パワーの影響がインスピレーションに特有であることを示唆する
- 研究 1 と研究 2 は、自身から引き出されるインスピレーションと他者から引き出されるインスピレーションにおけるパワーの感覚の影響について一致した結果を示した
 - 研究 3 では、インスピレーションを受けた出来事について記述させ、自身について書くかどうかをコード化して検討した

Study 3

Method

- 参加者：82 名（女性 61 名，男性 20 名，不明 1 名； $M_{age} = 21.46$, $SD_{age} = 5.72$ ）
- パワーの測定
 - 研究 1 と同様の尺度（7 件法）（ $\alpha = .74$; $M = 4.83$, $SD = 0.65$ ）
- 筆記課題
 - 大いにインスピレーションを受けた出来事について記述させた

- ◇ 何が起きたのか、その状況について何を考えたのか、どのように感じたのか
- 物語のコーディング
 - 課題に沿わなかった 5 名を除き、最終的なサンプルは 77 名
 - 2 人の評定者が独立に、参加者の物語の内容をコーディング (Table 2)
 - ◇ 自身を主役にした (1) か否か (0)
 - ◇ 評定者間の一貫度は 90% (Cohen's $k = .79$)
 - 一致しなかったものは話し合いで解決した

Table 2. Sample Experiences in Which Inspiration Was Drawn From the Self Versus Others (Study 3).

Inspiration from self	"I used to be a pilot in the air force. [...] It was very inspiring to me that I [...] did something which almost no one else could." "Last August, I participated in the European Sumo Championships. I unexpectedly ended at third place among the seniors. This experience will always stay with me. I was amazed to be on the podium with a couple of big old bears." "When I graduated from high school, I felt like I could handle the world. It gave me lots of energy and made me very happy."
Inspiration from others	"I started a job at a retirement home and that really changed my outlook on the world. It's so special to work with people from that generation. Their stories are beautiful and so simple. People only attach value to the most important things in life. [...] Almost everyone is enthusiastic about the life that they had and oftentimes shows gratitude." "Some time ago, a friend of mine got into an accident. [...] She was immensely positive and strong during her rehabilitation and that has made a great impression on me. I think she is a great example [...]." "I had just arrived in Australia and was looking for the right bus. A woman came up to me and spontaneously helped me out and started a nice conversation. I found this inspiring because it showed me that there are people out there who are just so nice and good."

Results and Discussion

- ロジスティクス回帰分析の結果、参加者は、よりパワーの感覚の強い参加者ほど、自分を主役にした出来事を記述しやすい傾向にあった ($\beta = .98$, $SE = .44$, Wald's $\chi^2 (df = 1, 77) = 5.06$, $p = .024$)
 - これは、よりパワーの感覚が強い人々は、より自然に自身を主役にしたインスピレーションを受けた出来事を生成する傾向にあることを示す
- 研究 4 では、インスピレーションを形成するパワーの役割における因果関係を示す実験デザインを使用した

Study 4

Method

- 参加者：94 名 (女性 70 名, 男性 24 名; $M_{age} = 20.07$, $SD_{age} = 2.42$)
- 参加者はランダムに 4 条件のうちの一つに分けられた
 - パワー (高 or 低) × 筆記内容 (自身の経験を書く or 他者の経験を書く)
- パワー操作
 - 広く使われている、自叙伝的な想起手続き (Galinsky et al., 2003, 2006) を使用
 - ◇ 高パワー条件の参加者には、他者を支配した状況について書くように指示
 - ◇ 低パワー条件の参加者には、他者に支配された状況について書くように指示

- 筆記課題
 - インスピレーションを受けた出来事について、以下のどちらか一方を記述
 - ◇ 自身が大いにインスピレーションを受けた出来事について
 - ◇ 聞いたもしくは読んだことのある、誰かが大いにインスピレーションを受けた出来事について
 - 何が起きて、その状況について何を考え、どのように感じたのか記述した
- インスピレーションの測定
 - 研究 2 と比較して、いくつかの日常的に使うインスピレーションの語句項目を加えた (7 件法; $\alpha = .84$; $M = 4.50$, $SD = 1.07$)
 - 刺激を受けている (inspired)
 - 驚いている (amazed)
 - 道徳的に高められている (uplifted)
 - 畏怖している (awe)
 - 感動している (moved)
 - 高揚している (high)
 - 熱中している (enthused)

Results and Discussion

- 課題の主効果は、他人の経験について書いた人より、自身の経験について書いた人の方がよりインスピレーションを受けることを示す ($F(1, 90) = 3.99$, $p = .049$)
 - 自分の経験 : $M = 4.71$, $SD = 1.01$
 - 他人の経験 : $M = 4.31$, $SD = 1.09$
- より重要なことは、この影響がパワーの感覚との交互作用によって条件づけられたこと ($F(1, 90) = 4.56$, $p = .035$) (Figure 2)
 - 単純主効果は、自身の経験を書くことにおいて、パワーの感覚の強い参加者が、パワーの感覚の弱い参加者より、よりインスピレーションを受けることを示した ($F(1, 90) = 4.10$, $p = .049$)
 - ◇ 高パワー条件 : $M = 5.01$, $SD = 1.00$
 - ◇ 低パワー条件 : $M = 4.41$, $SD = 0.95$
 - 一方で、パワーの感覚は他者の経験を書くことによるインスピレーションに影響しなかった ($F(1, 90) = 1.21$, $p = .27$)
 - ◇ 高パワー条件 : $M = 4.12$, $SD = 1.05$
 - ◇ 低パワー条件 : $M = 4.44$, $SD = 1.12$
 - また、高パワー条件において、他者の経験より、自身の経験によってよりインスピレーションを受ける傾向があった ($F(1, 90) = 7.94$, $p = .006$) が、低パワー条件では見られなかった ($F(1, 90) = 0.01$, $p = .92$)

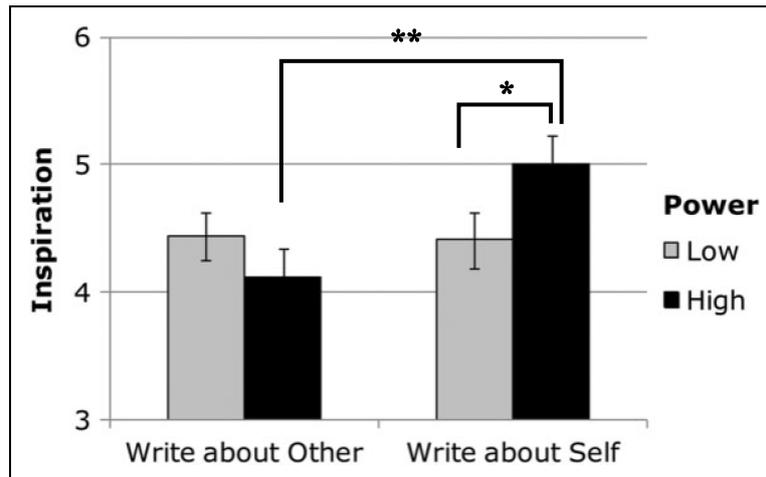


Figure 2. Feelings of inspiration after writing about another person's uplifting experience versus writing about one's own uplifting experience as a function of power (Study 4). Error bars represent standard errors. ** $p < .01$, * $p < .05$

- 実験的なデザインによって、パワーの感覚の弱い人々よりパワーの感覚の強い人々が、自身からインスピレーションを引き出すことを示したこれらの発見は、仮説を支持する
 - さらに、研究 1 と研究 2 の結果は、これらの結果がコミュニケーションの種類の差によるものではないことを示す

General Discussion

- インスピレーションは人の功績において必要不可欠だが、人々がそれをどのような資源から引き出すかは知られていない
 - 本研究では、パワーの感覚の強い個人が、他人の経験より、自身の経験によって優先的にインスピレーションを得られることを仮説とした
- 4つの研究は、以下の2つを明らかにした
 - 高いパワーの人々は、低いパワーの人々より、自身の経験によってよりインスピレーションを受ける
 - 高いパワーの人々は、他者の経験よりも自身の経験によってよりインスピレーションを受ける
- 先行研究は、パワーの感覚の強い人々が、聞き手であるより、より熱心な話し手である見解を示す (Hall, Coats, & LeBeau, 2005)
 - パワーの感覚の強い人々は、他者の感情を考慮しづらく (Van Kleef et al., 2004, 2008)、専門家のアドバイスを受け入れづらい傾向にある (Tost et al., 2012)
 - 本研究の発見は、それらの現象を説明することができる
- 本研究の発見は、パワーの感覚の強い人々が、パワーの感覚の弱い人々より、ポジティブ

な影響を受けるという主張 (Keltner et al., 2003) を、制限する

- 幸福感や有望性、自尊心などのベースラインとパワーの感覚の間に関連は見られたが、インスピレーションのベースラインとの間に関連はなかった
- パワーの感覚の強い人々のインスピレーションは、自身にインスピレーションを与えた経験を考えたとき促進されたが、他者の経験を考えたときは影響がなかった
- ◇ 実際、他者の物語を聞くことは、パワーの感覚の強い人々のインスピレーションを弱めるのかもしれない (研究 1)
 - それは、なぜパワーのある人が慢性的に高いレベルのインスピレーションを表出できないかの説明になる